



その8

活動データ 第9回

メニュー：ワカサギ釣り

日程：2月9日 土曜日

場所：朱鞠内湖(幌加内町)

参加：16人(4年生～6年生)



直径20センチ程の穴を手動のドリルで開けるそうです。これを自分たちでやるとなると、大変ですね。

子どもたちは釣竿を準備すると、さっそく氷の穴に釣り糸を下ろします。ワカサギは集団で回遊するらしく、泳いでいる深さもその時々で異なるそうです。このため、どの程度釣り糸を下ろせばいいかは様子を見ながら決めていきます。また、湖面での音や振動は氷の下によく伝わるので、騒ぎすぎるとワカサギは逃げてしまうそうです。

さて、子どもたちの釣れ具合はというと、最初に糸を下ろしてから数秒で釣り上げた子がいれば、エサだけ取られて釣れない子もいるなど様々です。

釣り場ポイントへはスノーモービルで移動します。右下の写真はバス停ならぬスノーモービル停？



目標は、ひとり10匹  
第9回目となる今回の教室は町外活動の第3弾、2月のメニューとしては恒例のワカサギ釣りです。子どもたちを乗せたバスは公民館を出発し、冷えたんだときにはダイヤモンドダストも見ることができるといふ朱鞠内湖へ向かいました。到着後、早めの昼食をとり、いよいよワカサギ釣りの開始です。釣り場ポイントまでは、現地のスタッフがスノーモービルで送ってくれました。凍った湖面を颯爽と走るスノーモービルは、それだけでも楽しめます。ポイントではあらかじめスタッフの方が氷に穴を開けておいてくれましたが、通常は厚さ90センチにもなる氷に



スタッフからの指導によると、釣り糸を下ろしたら竿先を見るのではなく、糸を見ること。糸が左右に振れたらすばやく引き上げる。とのことでした。竿先が上下に揺れているときは、もうエサを取られてしまっているそうです。今日はひとり10匹を目標に16人で約2時間挑戦し、結果は合計190匹。目標達成です。中には大きさがワカサギより明らかに大きいヤマメを釣り上げた子どももいました。

帰り仕度を済ませ、冷えきった体を温めながらバスは羽幌へと向かいます。同じ冬とはいえ、羽幌とはまたひと味違う寒さの中、自然に触れ、そしてこの厳しい環境の中でも生き物が生息していることを学んだ教室でした。



右上：釣り針にエサを付けます。寒い中指先の細かい作業は大変です。右中：釣り上げたワカサギ。小さくても銀色に輝き堂々としています。右下：釣り糸の振れを見ます。竿は持たずに置いた方がいいようです。左：羽幌に到着後、さっそくワカサギの天ぷらを囲んで夕食です。

自然教室メモ

ワカサギのはなし

ワカサギは、キュウリウオ科に分類される魚で、湖や内湾に生息します。本来の分布域は関東以北のようですが、水温など生息環境に広い適応力があり、食用としての需要が高いことから、日本各地の湖やダムなどでも、放流されたものが定着しています。漁期は10月から3月頃で、刺し網や地引網など色々な漁法が用いられますが、やはり凍った湖面での穴釣りがおなじみですね。

ちなみにワカサギを漢字で表すと「公魚」と書きます。その昔、將軍家に年貢として用いられたことから由来しているそうです。



成魚は全長15センチ程。同属種の子カと似ているが、背びれが腹びれより後ろにあるのが、ワカサギ。